

## 2 イスラーム世界の発展

### ①東方イスラーム世界

#### A トルコ人の諸王朝

○<sub>1</sub>\_\_\_\_\_朝（1038～1194年）〈スンナ派〉

☆<sub>2</sub>\_\_\_\_\_☆～セルジューク朝の建国者～

- ・ブワイフ朝を倒し、バグダード入城（1055年）  
→アッバース朝のカリフより、スルタンの称号を得る

●バグダードやイスファハーンなどの主要都市に<sub>3</sub>\_\_\_\_\_（学院）を建設

●アナトリア・シリア海岸地帯へ進出し、ビザンツ帝国を圧迫

→十字軍（1096～1270年）の原因となる

☆マリク=シャー☆

宰相にニザーム=アルムルクを登用、<sub>4</sub>\_\_\_\_\_を建設

○カラハン朝（940?～1132年?）

東・西トルキスタンを統合

→中央アジアにイスラーム文化を導入

○ガズナ朝（962～1186年）

- ・サーマーン朝のマムルークがアフガニスタンに建国  
インドに侵入を繰り返す

#### B モンゴル人の支配

1258年、<sub>5</sub>\_\_\_\_\_率いるモンゴル軍によるバグダード占領

→アッバース朝は滅亡し、カリフ制度は一旦消滅

<sub>6</sub>\_\_\_\_\_国（1258～1353年） 都：タブリーズ

☆フラグ☆

- ・1258年、イラン・イラクを領有→建国
- ・エジプトのマムルーク朝と敵対する

☆<sub>7</sub>\_\_\_\_\_☆～7代ハン、イル=ハン国の最盛期～

- ・イスラーム教を国教化
- ・イスラーム文化を保護
- ・宰相ラシード=アッディーンの登用・・・著書『集史』

②バグダードからカイロへ

A 8 \_\_\_\_\_ 朝（1169～1250年） 都：カイロ <スンナ派>

☆サラーフ=アッディーン（通称9 \_\_\_\_\_） ☆～アイユーブ朝の建国者～

- ・ファーティマ朝を滅ぼし、建国
- ・1187年、イェルサレムを占領し、第3回十字軍を撃退

B 10 \_\_\_\_\_ 朝（1250～1517年） 都：カイロ <スンナ派>

- ・アイバクによる建国

☆バイバルス☆～3代スルタン、マムルーク朝の最盛期～

- ・フラグによって滅ぼされたアッバース朝のカリフの後裔を保護
- ・メッカ・メディナの両聖都を保護下におさめる
- ・イル=ハン国、第7回十字軍と戦う
- ・1517年、オスマン帝国の攻撃を受け滅亡

### ③西方イスラーム世界の変容

#### A 北アフリカ

○先住民の<sub>1</sub>\_\_\_\_\_人

マグリブ地方のモロッコ中心に生活

マグリブとは? 「日の没するところ」の意味 現在の北アフリカ西部地域

11世紀半ば、イスラーム教への熱狂的宗教運動の発生

#### B イベリア半島

○<sub>2</sub>\_\_\_\_\_朝(1056~1147年) 都:マラケシュ

- ベルベル人の国家
- 1147年、ガーナ王国を滅ぼす
- モロッコ~イベリア半島へ進出 ※レオン王国に勝利
- <sub>3</sub>\_\_\_\_\_ (国土回復運動)に對抗

○ムワッヒド朝(1130~1269年) 都:マラケシュ

- ベルベル人
- 1147年、ムラービト朝を滅ぼし建国
- レコンキスタ(国土回復運動)に對抗するも敗退
- カスティリヤ王国により滅亡

○<sub>4</sub>\_\_\_\_\_朝(1232~1492年) 都:<sub>5</sub>\_\_\_\_\_

- アルハンブラ宮殿の建設
- 1492年、スペイン王国によるグラナダ占領→レコンキスタの完了  
→多くのムスリムは北アフリカに撤退したが、キリスト教との融合・改宗により残留する者もいた

### ④イスラームの国家と経済

#### A イスラーム社会の制度

○<sub>6</sub>\_\_\_\_\_制(俸給性)

- 官僚・軍人に奉仕に見合う給与を与える
- ウマイヤ朝、アッバース朝で確立

○<sub>7</sub>\_\_\_\_\_制

- 君主が軍人・官僚に給与に見合う税の取れる土地の徴税権を与え、それが軍人の俸給(アター)になる
- ブワイフ朝で創始、セルジューク朝で拡大し、西アジア方面にも広まる
- アイユーブ朝も実施したことで、エジプト方面にも広まる





○インド=イスラーム文化の誕生

- バクティ（神への献身）・ヨーガ（苦行による神との合体）といった旧来の信仰との共通性  
→インド文化と融合→インド=イスラーム文化の誕生
- 両文化を融合した壮大な都市建設，サンスクリット語作品のペルシア語への翻訳

## ②東南アジアの交易とイスラーム化

### A 東南アジア交易と中国…さまざまな地域からの商人が進出

#### ○8世紀の情勢

- ・ムスリム商人…インド洋から東南アジア・中国沿岸まで進出  
→黄巢の乱で広州が破壊→マレー半島まで撤退
- ・中国人商人…唐の衰退：朝貢貿易不振→交易にジャンク船で直接参加

#### ○10世紀後半の情勢

- ・チャンパー・三仏齊などの諸国…宋王朝に朝貢
- ・ムスリム商人…広州・泉州に居留地建設
- ・中国人商人…東南アジア各地に居留地

#### ○13世紀後半の情勢

- ・南宋を征服した元朝がアジアの海域世界へ軍事進出  
→海上交易も積極的に推進…遠征後も中国人商人・ムスリム商人が交易活動展開
- ・ベトナム…陳朝が撃退，ビルマ…パガン朝滅亡
- ・ジャワ…元軍の干渉排除→マジャパヒト王国成立

### B 東南アジアのイスラーム化

#### ○13世紀…諸島部を中心にムスリム商人・神秘主義教団が活動

→13世紀末，スマトラ島に東南アジア初のイスラーム国家成立

#### ○15世紀…マラッカ王のイスラーム改宗→東南アジアのイスラーム化進展の契機

イスラームの拡大…マラッカ王国を拠点→ジャワ・フィリピンへと拡大  
→イスラーム政権…スマトラ：アチェ王国 ジャワ：イスラームのマタラム王国

#### ◆マラッカ王国（15世紀初頭～1511年）

- ・マレー半島で海上交易により繁栄し、国際交易都市として発展
- ・アユタヤ朝（タイ）の従属から明の後ろ盾を得て自立→明と朝貢関係となる

#### ◆アチェ王国（15世紀末～1912年）

- ・スマトラ島北部に成立
- ・ポルトガルのマラッカ占領後、これに対抗するムスリム商人の貿易拠点の一つになる

#### ◆マタラム王国（16世紀末～1755年）

- ・ジャワ島中・東部に成立
- ・オランダ東インド会社によって王国は2分割され、消滅

### ③アフリカのイスラーム化

○<sub>1</sub> \_\_\_\_\_ 王国（前10世紀～後4世紀） 都：ナパター→メロエ

- ・ナイル川上流に建国するも、前8世紀にエジプトの侵入を受ける
- ・アッシリアの侵入により後退し、都をナパタから<sub>2</sub> \_\_\_\_\_ に遷都
- ・製鉄業で栄え、ローマ時代も独立を保持
- ・メロエ文字→未解読
- ・アクスム王国の侵入により滅亡

○<sub>3</sub> \_\_\_\_\_ 王国（7世紀頃～13世紀頃）

- ・金や象牙をサハラの岩塩と交換する交易（サハラ縦断交易）で栄える
- ・1076年、ムラービト朝の攻撃で衰退

○マリ王国（13世紀～15世紀 都：<sub>4</sub> \_\_\_\_\_

- ・「黄金の国マリ」と呼ばれるほど、豊富な金が採掘される
- ・サハラ縦断交易で栄える

☆<sub>5</sub> \_\_\_\_\_ ☆～第9代の王、マリ王国の最盛期～

- ・カイロ経由で、メッカを巡礼
- ・多くのモスクを建設し、学問を奨励

○ソングアイ王国（15世紀～1591年） 都：ガオ

- ・トンブクトゥは宗教と交易の中心として繁栄
- ・サード朝モロッコにより滅亡

○モノモタパ王国（11世紀～19世紀） 都：ジンバブエ

- ・ザンベジ川流域に位置
- ・鉱物資源とインド洋交易により栄える
- ・<sub>6</sub> \_\_\_\_\_ 遺跡・・・インド産のガラス玉や中国の陶磁器が出土

#### 4 イスラーム文明の発展

##### ①イスラーム文明の特徴

##### A イスラーム文明…古代より先進文明が栄えた地域に建設

###### ○融合文明

各地の文化とアラブ人がもたらしたイスラーム教・アラビア語が融合

###### ○都市文明

バグダード・カイロなど大都市に発達

###### ○普遍的文明

イスラーム教を核としてイスラーム世界各地で受容

各地の地域的・民族的特色を加味して特色ある文化を形成

→イラン=イスラーム文化・トルコ=イスラーム文化・インド=イスラーム文化など

##### B 中世ヨーロッパの受容

###### ○中世ヨーロッパ

・イスラーム教に敵対しつつ文化を受容

・翻訳の隆盛…11～13世紀、スペインのトレドを中心

古代ギリシアの文献やアラビア科学・哲学の著作をラテン語に翻訳

→西ヨーロッパで12世紀ルネサンスが開花

###### ○イスラーム文明の果たした役割

ギリシア文明とヨーロッパ文明の橋渡し

## ② イスラームの社会と文明

### A 西アジアのイスラーム社会の特徴

#### ○都市を中心に発展

モスク・学院（マドラサ）…信仰・学問・教育の場

市場：（スーク・バザール）…生産と流通の場

※都市居住者…軍人・商人・職人・知識人など

ウラマー（知識人）とは？ 法学・神学・伝承学・歴史学などイスラーム諸学をおさめた人

#### ○イスラーム=ネットワークの形成

イスラーム帝国の成立により都市を結ぶ交通路が整備

→ネットワークの成立

→新しい知識・生産の技術が短期間で遠隔地へ伝播

#### ○紙の普及…パピルスや羊皮紙にかわる記録用具→イスラーム文明発展に多大な影響

※製紙法…タラス河畔の戦いを機に唐軍の捕虜から学ぶ

→サマルカンド・バグダード・カイロなどに製紙工場建設

→イベリア半島・シチリア島を経て、13世紀頃ヨーロッパに伝播

### B 神秘主義の流行（10世紀以後）

#### ○神秘主義（スーフィズム）

スーフィズムとは？ 形式的信仰を排除，神との一体感を希求

都市の職人や農民に興隆→12世紀，聖者を中心に神秘主義教団が多数結成

※神秘主義者：スーフィー…「粗末な羊毛をまとったもの」の意味

神秘主義教団…ムスリム商人とともにアフリカや中国・インド・東南アジアへ進出

→各地の習俗を取り入れながら，イスラームの信仰を広める

### C 文明の担い手とワクフ

イスラーム文明の担い手：都市の住人・神秘主義者

カリフやスルタンをはじめとする支配者たちの保護

→モスク・学院の建設

→宗教・教育施設に土地や商店の収入をワクフとして寄進

→イスラーム文明の発達をうながす要因

ワクフとは？ モスクや学校建設，子孫のために財産を寄進すること，寄進財産

### ③ 学問と文化活動

#### A 初期の学問

##### ○最初に発達した学問

アラビア語の言語学、『コーラン』の解釈に基づく神学・法学

歴史学…上記学問の補助手段→数多くの伝承（ハディース）の収集が発達を助長

タバリー：『預言者たちと諸王の歴史』…9～10世紀，年代記形式の世界史

イブン=ハルドゥーン：『世界史序説』…14世紀

→都市と遊牧民の交渉を中心に，王朝興亡の歴史に法則性の存在を論じる

#### B 9世紀から発達した学問

##### ○9世紀初め～ギリシア語文献のアラビア語への組織的翻訳

→学問の飛躍的発達…バグダードの「知恵の館」（バイト=アルヒクマ）中心

##### ○医学・天文学・幾何学・光学・地理学…ギリシアから学ぶ

→臨床や観測・実験によりさらに豊富で正確な学問へ

##### ○医学・天文学・数学…インドから学ぶ

数字…のちのアラビア数字 導入→独創的な成果を達成

十進法・ゼロの概念

##### ○代数学・三角法…フワーリズミーらの開発

→錬金術・光学の実験方法とともにヨーロッパ近代科学の基礎へ

##### ○『四行詩集』（『ルバイヤート』）の作者ウマル=ハイヤームの活躍

→数学・天文学にすぐれ，正確な太陽暦の作成に関与

#### C 哲学と文学

##### ○アリストテレス哲学を中心とするギリシア哲学の研究隆盛

ギリシア哲学の用語と方法論→合理的・客観的なスンナ派の神学体系樹立

→10世紀以降，神秘主義思想の影響をうけながらも信仰と理性の調和保持

### 【建築・美術・工芸】

- ・モスク建築…ミナレット（光塔）をもつ→イスラーム世界固有の都市景観
- ・美術・工芸 繊細な細密画（ミニアチュール）、象眼をほどこした金属器
- ・アラバスクの発達…唐草文やアラビア文字を図案化した装飾文様

### 【文学】

『千夜一夜物語』（『アラビアン=ナイト』）・・・インド・イラン・アラビア・ギリシアを起源とする説話で、16世紀初め頃にカイロで集大成

フィルドゥーシー・・・『シャー=ナーメ』

ウマル=ハイヤーム・・・『四行詩集』（『ルバイヤート』）

### 【旅行文学】

メッカ巡礼記を中心に記される  
イブン=バットゥータ・・・『旅行記』（『三大陸周遊記』）を口述 モロッコから中国にいたる世界旅行記

### 【神学】

ガザリー・・・イスラーム信仰の基礎として神秘主義を容認、イスラーム最大の思想家

### 【歴史学】

タバリー・・・『預言者たちと諸王の歴史』

イブン=ハルドゥーン・・・『世界史序説』

ラシード=アッディーン・・・『集史』

### 【哲学】

イブン=シーナー・・・ラテン名：アヴィケンナ→医学者としても有名

イブン=ルシュド・・・ラテン名：アヴェロエス アリストテレス哲学の注釈書を作成

### 【医学】

イブン=シーナー・・・『医学典範』

### 【数学】

フワーリズミー・・・『代数学』

### 【天文学】

ウマル=ハイヤーム・・・太陽暦の作成に関与

### 【地理学】

イドリーシー・・・シチリア王ルッジェーロ2世の命を受けて世界地図を作成